

臨床咬合補綴治療

～ 診断と治療の指標～

歯科医師としての日常臨床は、クラウン1本でも咬合とかわらざるをえない。快適で安定した下顎運動は、咬合(歯) — 咀嚼筋 — 顎関節が不調和な状態では達成できない。咀嚼などの機能時やパラファンクション(非機能時)の際に歯には力が加わる。それが適正な荷重であれば生体にとってはストレスとならない。しかし、過剰な力や偏圧的な力は生体にとって負荷(バイオメカニカルストレス)となる。または、微小な力であっても、繰り返して継続されればバイオメカニカルストレスとなる。生体の回復能力を超えて蓄積されたバイオメカニカルストレスは、組織の破壊を引き起こす可能性がある。つまり、我々臨床家が行う咬合治療や補綴治療は、上下歯の対合関係のみならず、顎口腔系との調和がなされなければならない。上下歯は接触したその時から顎関節や関連咀嚼筋を制御する。顎関節と関連咀嚼筋が、咬合時に解剖学的調和と機能的調和のとれた無理のない位置で適正な荷重に制御されなければ、生体にとっても補綴物にとっても長期に安定することは困難となる。では、臨床でクラウン1本の治療しか必要のない患者に、「顎口腔系全体の調和がなされているか診査しましょう」と診査をするのか?必要なのか?必要ないのか・・・とはいえ、1本の補綴物を装着してから1年間顎関節症で悩まされた患者も診てきた。顎口腔系を踏まえた咬合診査が必要か必要でないかの判断はあるのか?

このたびは、生体との調和をふまえた咬合治療、補綴治療のための咬合診査の必要基準、その診断と治療の指標を提示させていただきたいと考えている。

講師：今井俊広 先生

1979年 東北歯科大学(現・奥羽大学歯学部)卒業

1979年 原宿デンタルオフィス勤務、山崎長郎先生に師事

1984年 米国L.A.にて Raymond.L.Kim先生に師事その間 University of Southern Californiaにて卒業研修コース受講

1987年 鳥取県米子市にて今井歯科クリニック開業、現在に至る



日本顎咬合学会会員、評議委員、指導医
東京SJCD会員、研修コースインストラクター、硬組織再生生物学会会員



著者最新刊：「臨床咬合補綴治療」
その鑑別診断と治療計画

クインテッセンス出版 2009年11月刊 311ページ16,800円

～できるだけ事前に一読の上で参加ください～

講師：今井俊広 先生

日時：2011年3月21日(月・祝)

09:30～16:00

会場：熊本県歯科医師会館ホール

費用：歯科医師8,000円/その他5,000円

(熊本SJCD会員は5,000円/3,000円)

申込：熊本S.J.C.D.事務局

熊本市小峯1丁目1-95

096-331-0567(fax331-0577)

taka@ourdent.com

定員：100名

(ご入金順。お振込をもって
申込とさせていただきます。)



オフィス名	区分	DR	他	連絡先	合計額
	会員			代表者名	円
	一般	人	人	〒 住所 電話 fax e-mail	振込先 肥後銀行佐土原支店 普通145126 熊本SJCD事務局 栗津貴昭

FAX 096-331-0577

できるだけお早めにお申し込みください